

アジア・ヘルスケア株式ファンド

運用報告書(全体版)

第18期(決算日 2023年12月21日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
「アジア・ヘルスケア株式ファンド」は、2023年12月21日に第18期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/海外/株式
信託期間	2015年1月16日から原則無期限です。
運用方針	主として、アジア(日本を除きます。)各国の金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式(これに準ずるものを含みます。)を投資対象とする投資信託証券(投資信託または外国投資信託の受益証券(振替投資信託受益権を含みます。))および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。)の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド(JPYクラス)」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

<642681>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時~午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			債 組 入 比	券 率	投 資 信 託 組 入 比	純 資 産 額
	(分配落)	税 分 配	み 騰 落 率				
	円	円	%	%	%	百万円	
14期(2021年12月21日)	9,726	0	△19.6	—	98.4	8,145	
15期(2022年6月21日)	9,119	0	△6.2	—	98.8	7,378	
16期(2022年12月21日)	9,026	0	△1.0	—	98.6	6,963	
17期(2023年6月21日)	9,225	0	2.2	—	98.3	6,746	
18期(2023年12月21日)	9,216	0	△0.1	—	98.9	6,252	

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

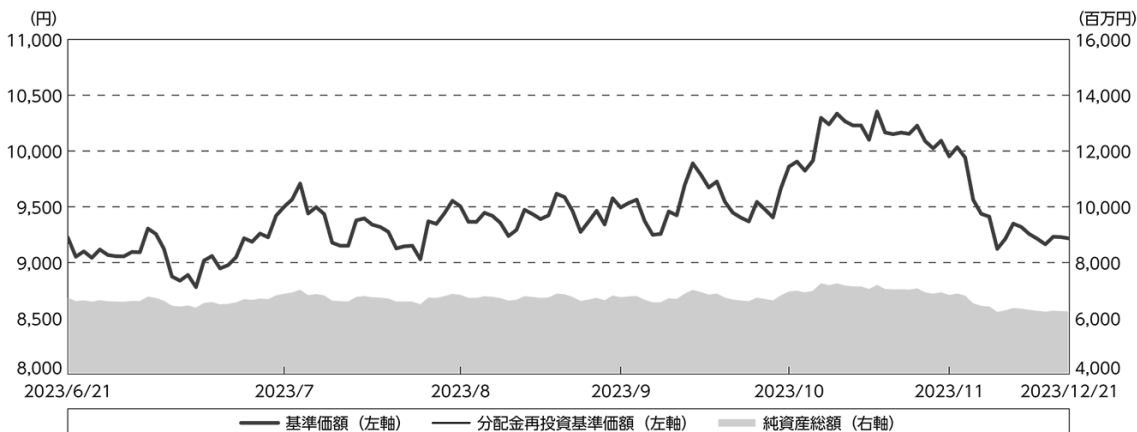
年 月 日	基準価額		投 資 信 託 組 入 比	券 率
	騰 落 率	騰 落 率		
(期首) 2023年6月21日	円	%	%	%
6月末	9,225	—	98.3	—
7月末	9,056	△1.8	98.7	3.0
8月末	9,500	3.0	98.6	3.0
9月末	9,504	3.0	98.8	2.9
10月末	9,494	2.9	98.6	6.9
11月末	9,860	6.9	98.6	7.9
(期末) 2023年12月21日	9,952	7.9	98.5	△0.1
	9,216	△0.1	98.9	

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2023年6月22日～2023年12月21日)

期中の基準価額等の推移



期 首：9,225円

期 末：9,216円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率：△0.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2023年6月21日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を除くアジアの金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・米国の債務上限問題の懸念後退や中国の景気対策期待の高まりなどを背景に、主要株式市場が堅調に上昇したこと。
- ・米国の利上げ終了観測などを受けて世界的に金利が急低下したことや、米中首脳会談などを受けて、市場が2023年の年初来の高値圏まで反発したこと。
- ・米国の利上げ長期化観測や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進み、円ベース・リターンの押し上げ効果となったこと。

<値下がり要因>

- ・米国の金融引き締め of 長期化観測や、中国の景気懸念と不動産信用問題の再燃、中東情勢の混乱などが悪材料となり世界的な株安となったこと。

投資環境

(アジア株式市況)

2023年の後半は、投資家のセンチメント（心理）が「希望」と「恐怖」という両極端を周期的に往復する展開となりました。米国のインフレが予想より収束が早かったため、米国連邦準備制度理事会（FRB）による積極的な引き締めサイクルが終了し、金利がさらに大きく上昇することはないとの観測を背景に投資家は楽観的な見方を強めました。しかしながら、国内総生産（GDP）成長率や雇用統計の好調な結果は、一般的に言われていた景気後退入りの可能性を低下させる一方で、「より長く、より高い」金利環境に対する懸念が台頭しました。さらに、国債利回りの上昇や、必要ならば追加利上げも辞さないというFRBによるタカ派（金融引き締めの政策を支持）的な発言が続いたことで、市場は不透明な状況となりました。

また、低迷する中国経済が状況をさらに複雑化させました。7月には、中国の首脳が内需の拡大および苦境に立つ不動産市場の支援に焦点を当て、回復途上の経済を下支えするために追加的な政策支援を実施すると表明したことを受けて、中国株式市場は上昇しました。しかし8月になり、景気低迷が続くと懸念や、景気刺激策が不十分であるとの見方から、市場は下落基調となりました。その後年末にかけては、経済指標が改善し、中国人民銀行が金融刺激策の強化を明白にしたことで、中国市場は緩やかな下落にとどまりました。

期間中、アジアのヘルスケア市場は上昇しました。国別では、インドや韓国が上昇する一方、中国は下落しました。中国では、政府の反腐敗キャンペーンの一環として2023年8月に実施された反腐敗の検査が、ヘルスケアセクターの主要企業の2023年第3四半期決算に悪影響を及ぼすと懸念があったものの、その懸念は払拭されました。しかし、12月上旬、中国の生物製剤CDMO（医薬品受託製造開発機関）大手のウーシー・バイオロジクスが、資金調達環境の悪化に伴う世界的なCDMO事業の減速や、規制当局による承認遅れを受けて、複数の大手製薬企業から受注した大型プロジェクトが遅延していることを理由に、通期の業績見通しを下方修正したことを受けて、中国の医薬品関連業務受託機関（CXO）銘柄は再び下落し、ヘルスケアセクター低迷の一因となりました。

(国内短期金利市況)

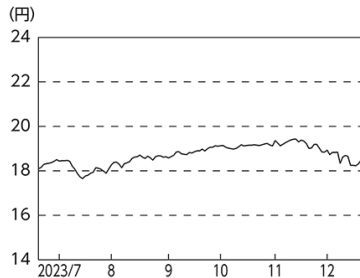
無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.07%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.01%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.15%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.18%近辺で期間末を迎えました。

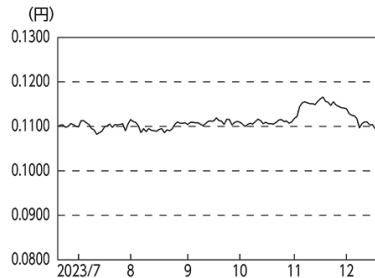
(為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

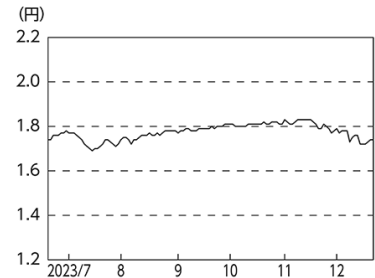
円／香港ドルの推移



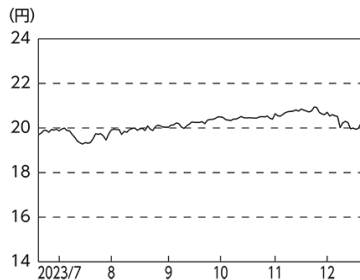
円／韓国ウォンの推移



円／インドルピーの推移



円／香港・オフショア人民元の推移



当ファンドのポートフォリオ

(当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）)

期間中、国別では、インドが最もプラスに寄与しました。主な要因としては、インドの製薬会社について、米国のジェネリック医薬品市場における価格下落幅が小さかったこと、ならびに、インド国内では、製造コストの上昇圧力が小さいなかで医薬品の売上増加率が安定的に推移したことが挙げられます。ただし、当ファンドでは、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）が伴わないヘルスケア企業は引き続き回避する方針です。

韓国もプラスに寄与しました。セルトリオンは、グループ内の子会社2社の合併や、開発中のバイオシミ

ラー（バイオ後続品）が米国食品医薬品局（FDA）の承認を取得したことが好感され、株価が上昇しました。韓国最大の生物製剤のバイオ受託製造機関（CMO）であるサムスンバイオリジクスは、市場予想を上回る好調な四半期決算を発表し、通期見通しを上方修正したものの、株価は冴えませんでした。対照的に、CDMOのグローバル企業は、高金利環境下におけるバイオテクノロジー関連の資金調達の鈍化や、新型コロナウイルス関連プロジェクトの減少を受けて、業績見通しを下方修正しました。当ファンドでは、サムスンバイオリジクスのファンダメンタルズは良好であり、FRBがハト派（金融緩和的な政策を支持）的スタンスに転換することが予想されるなか、同社のバリュエーション（株価評価）がファンダメンタルズに「追いつく」ことを期待しています。

中国では、銘柄選択がプラスに寄与しました。主に、ハッチメッド、イノベント・バイオリジクス、チャイナ・メディカル・システム・ホールディングスなどの株価が上昇しました。また、CXO企業における銘柄選択も奏功しました。

最後に、タイの病院の組入比率を低めにしていたことも、プラスに働きました。タイの病院銘柄の株価は過去2年くらいの間で大きく上昇し、その反動による利益確定売りが上値を重くしました。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第18期
	2023年6月22日～ 2023年12月21日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,951

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド(JPYクラス)」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド(JPYクラス))

世界金融危機以降の比較的平穏な市場環境は終焉を迎えており、「量的引き締め」という新たな社会が金融市場の流動性を縮小させています。ただ、金融引き締めはすでにピークに近づいている様相を呈している一方、最近のデータはインフレが鈍化していることを示しています。ただし、米国の景気後退の懸念が払拭されてはならず、まだ楽観視する段階にはありませんが、転換点が近づいていることを示唆しています。FRBによる利上げが一服して、アメリカドル安が進行し、一部の新興国の中央銀行は米国に先立って利下げに踏み切っています。

一方、地政学的には、中東情勢が不透明感を増すなど、安定する兆しがほとんど見られません。2024年は、1月の台湾の総統選挙を皮切りに11月の米国の大統領選挙まで多くの選挙が予定されており、取引材料の多い1年になりそうです。選挙期間中に相場が荒れる可能性はありますが、選挙が実際に経済や市場に影響を与えることを示す証拠は歴史的にはほとんど存在しません。

アジアについては、政府による事業環境の良化を図る支援政策に加え、景気に対する信頼感の改善に伴い生産と個人消費が拡大しており、先進国よりも大きな市場に成長する可能性があると考えられます。企業の

バランスシートは堅固でバリュエーションも魅力的であり、過去1年で投資家が資金を引き揚げたことを考えると、資金流入の余地が生まれています。

ヘルスケアセクターでは、中国が大きなブレーキになりました。当ファンドでは、中国のヘルスケア市場の回復には楽観的であり、以下の3つの要素を注視しています。1つ目は、2023年になり腫瘍学の分野で大手製薬会社が中国の抗体薬物複合体の大型ライセンス契約を複数締結したことです。2024年にはデータが公表されることで開発パイプラインが評価され、株価水準も見直されると考えられます。2つ目は、減量薬が世界的に大成功を収めたことで、肥満症に対する新たな治療法の開発が活発化していることです。中国で初めて開発された肥満症治療薬は2024年に臨床試験を完了し、承認申請される見込みです。3つ目は、金利サイクルの転換が資金調達の流れを変え、バイオテクノロジー企業の株価の低迷に終止符が打たれることが期待されることです。

韓国では、アルツハイマー治療薬やヒュミラ（関節リウマチ治療薬）のバイオシミラーの発売動向を引き続き注視します。AI（人工知能）を活用した医療診断、細胞・遺伝子治療、メディカルエステティックの分野にもすでに投資しており、2024年もこれらの成長分野へ追加投資を行う予定です。

インドでは、バリュエーションが割高で、製薬会社にとってのドライバーや材料がほとんど見当たらないものの、インドの病院銘柄については構造的な内需要因により強気な見方を維持しています。2024年も、高等な手術の割合を高める一方で保険患者の割合を増やし、経営効率を向上させることで、インドの病院はケース・ミックス（国際疾病分類を使って、重症度や医療資源の必要度により患者を分類すること）の改善を通じて成長を持続させることができると考えています。

長期的には、アジアのヘルスケア市場のファンダメンタルズに基づく投資妙味に揺らぎはないと考えています。過去5年間で市場は非常に大きく拡大しました。中国や韓国などの市場で医療イノベーション（革新）に向けたヘルスケア改革が進み、バイオテクノロジー、CXO、AIなどの新たなサブセクターが登場したことによって、アジアのヘルスケアセクターにおける投資機会は大きく拡大しました。当ファンドでは、アジアのヘルスケアセクターの発展は、投資家により高いリターンをもたらすと考えています。当ファンドでは、あらゆる調整機会を捉えてこの構造的成長セクターに投資する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2023年 6 月 22 日～2023年 12 月 21 日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 55	% 0.577	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(12)	(0.121)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(42)	(0.440)	運用報告書など各種書類の送付、口内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.021	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 等 ）	(2)	(0.019)	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
合 計	57	0.598	
期中の平均基準価額は、9,561円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

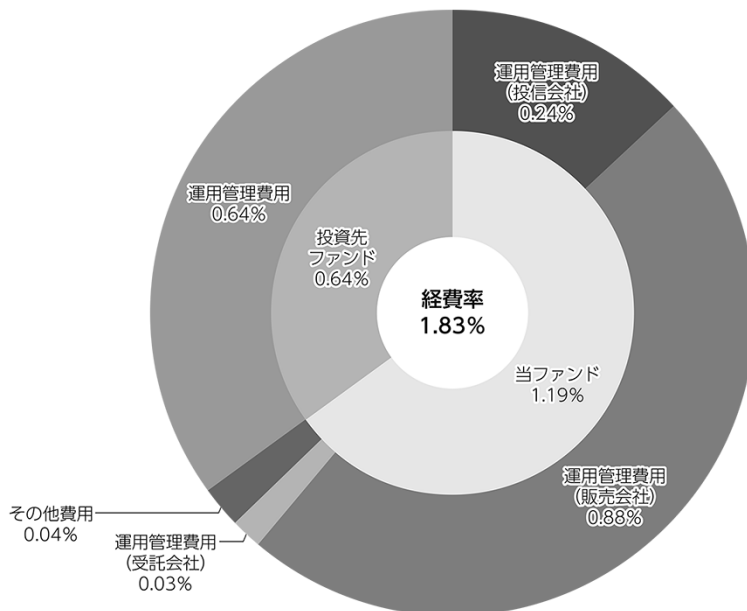
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.83%です。



(単位:%)

経費率 (①+②)	1.83
①当ファンドの費用の比率	1.19
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.64

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認いただけますが、期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用（事務管理費用、資産の保管費用、監査費用、信託財産に関する租税など）がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年6月22日～2023年12月21日)

投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド (JPYクラス)	千口	千円	千口	千円
		—	—	478, 138	510, 156

(注) 金額は受け渡し代金。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	マネー・アカウント・マザーファンド	千口	千円	千口	千円
		—	—	413	413

○利害関係人との取引状況等

(2023年6月22日～2023年12月21日)

利害関係人との取引状況

<アジア・ヘルスケア株式ファンド>

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$

<マネー・アカウント・マザーファンド>

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三井住友信託銀行株式会社です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2023年6月22日～2023年12月21日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2023年6月22日～2023年12月21日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2023年12月21日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末		
		口 数	口 数	評 価 額	比 率
		千口	千口	千円	%
日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド (JPYクラス)		6,585,444	6,107,306	6,182,426	98.9
合 計		6,585,444	6,107,306	6,182,426	98.9

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
マネー・アカウント・マザーファンド		6,768	6,355	6,366

(注) 親投資信託の2023年12月21日現在の受益権総口数は、448,935千口です。

○投資信託財産の構成

(2023年12月21日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 6,182,426	% 97.8
マネー・アカウント・マザーファンド	6,366	0.1
コール・ローン等、その他	130,000	2.1
投資信託財産総額	6,318,792	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年12月21日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	6,318,792,876
コール・ローン等	130,000,136
投資信託受益証券(評価額)	6,182,426,493
マネー・アカウント・マザーファンド(評価額)	6,366,247
(B) 負債	66,440,130
未払解約金	24,764,557
未払信託報酬	38,976,500
未払利息	19
その他未払費用	2,699,054
(C) 純資産総額(A-B)	6,252,352,746
元本	6,783,869,872
次期繰越損益金	△ 531,517,126
(D) 受益権総口数	6,783,869,872口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,216円

(注) 当ファンドの期首元本額は7,313,475,396円、期中追加設定元本額は100,326,427円、期中一部解約元本額は629,931,951円です。

(注) 1口当たり純資産額は0.9216円です。

(注) 2023年12月21日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は531,517,126円です。

○損益の状況 (2023年6月22日～2023年12月21日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 16,149
受取利息	92
支払利息	△ 16,241
(B) 有価証券売買損益	32,597,577
売買益	60,683,750
売買損	△ 28,086,173
(C) 信託報酬等	△ 40,411,009
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 7,829,581
(E) 前期繰越損益金	△ 629,149,075
(F) 追加信託差損益金	105,461,530
(配当等相当額)	(124,224,235)
(売買損益相当額)	(△ 18,762,705)
(G) 計(D+E+F)	△ 531,517,126
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△ 531,517,126
追加信託差損益金	105,461,530
(配当等相当額)	(124,224,235)
(売買損益相当額)	(△ 18,762,705)
分配準備積立金	1,199,986,996
繰越損益金	△1,836,965,652

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程(2023年6月22日～2023年12月21日)は以下の通りです。

項 目	2023年6月22日～ 2023年12月21日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	124,224,235円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	1,199,986,996円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	1,324,211,231円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	1,951円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上処理しています。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金 (税込み)	0円
------------------	----

○お知らせ

約款変更について

2023年6月22日から2023年12月21日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、その商品性、基準価額水準および純資産規模等を勘案し、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、信託期間を無期限とするよう、2023年9月22日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。(第4条、第47条)
- 当ファンドについて、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、投資対象ファンドにて行なうデリバティブ取引の利用目的を明確化するべく、2023年9月22日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。(付表)

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

種類・項目	日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド(J P Yクラス)	
	シンガポール籍円建外国投資信託	
運用の基本方針		
基本方針	信託財産の中長期的な成長を目指します。	
主な投資対象	日本を除くアジアの医療関連企業の株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。	
投資方針	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を除くアジアの医療関連株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。 ・運用にあたっては、ボトムアップの企業分析とトップダウンのマクロ見通しを融合して、ポートフォリオを構築します。 	
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ・株式への投資割合に制限を設けません。 ・一の発行体に対する投資割合は、原則として信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 ・証券の空売りは行ないません。 	
収益分配	原則として、毎年6月12日と12月12日(休日の場合は翌営業日)に分配を行ないます。なお、運用会社の判断により収益分配を行なわないことがあります。	
ファンドに係る費用		
信託報酬など	純資産総額に対して年率0.65% (国内における消費税等相当額はかかりません。)	
申込手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	
その他の費用など	事務管理費用、資産の保管費用、有価証券売買時の売買委託手数料、設立に係る費用、法律顧問費用、監査費用、信託財産に関する租税など。	
その他		
運用会社	日興アセットマネジメント アジア リミテッド	
信託期間	無期限	
決算日	原則として、毎年12月末日	

◆ポートフォリオ明細表

日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド

2022年12月31日現在

地域別（第一区分）	数量	公正価値 シンガポール・ドル	受益者に帰属 する純資産に 占める割合 %
上場株式			
中国			
CanSino Biologics Incorporated	35,800	410,637	0.56
China Medical System Holdings Limited	762,000	1,607,967	2.19
CSPC Pharmaceutical Group Limited	2,929,680	4,128,173	5.64
Hangzhou Tigermed Consulting Company Limited	79,394	1,612,907	2.20
Hansoh Pharmaceutical Group Company Limited	592,000	1,509,661	2.06
Huadong Medicine Company Limited	162,561	1,474,765	2.01
Innovent Biologics Incorporated	520,000	2,993,450	4.09
JD Health International Incorporated	137,350	1,684,017	2.30
Jiangsu Hengrui Pharmaceuticals Company Limited	282,417	2,109,358	2.88
RemeGen Company Limited	103,000	1,024,801	1.40
Shenzhen Mindray Bio-Medical Electronics Company Limited	39,800	2,437,751	3.33
Sinopharm Group Company Limited	524,000	1,786,474	2.44
WuXi AppTec Company Limited – Class A	44,300	695,583	0.95
WuXi AppTec Company Limited – Class H	171,700	2,432,679	3.32
WuXi Biologics Cayman Incorporated	674,000	6,931,829	9.47
中国合計		32,840,052	44.84
香港特別行政区			
Alibaba Health Information Technology Limited	846,000	966,754	1.32
HUTCHMED China Limited	344,000	1,418,710	1.94
Sino Biopharmaceutical Limited	1,532,750	1,203,681	1.64
香港特別行政区合計		3,589,145	4.90
インド			
Alkem Laboratories Limited	14,044	682,354	0.93
Cipla Limited	60,854	1,061,631	1.45
Dr Reddy's Laboratories Limited	29,344	2,016,553	2.75
Sun Pharmaceutical Industries Limited	250,000	4,052,957	5.53
Torrent Pharmaceuticals Limited	24,400	612,736	0.84
インド合計		8,426,231	11.50
韓国			
Celltrion Incorporated	33,894	5,769,974	7.88
Jeisys Medical Incorporated	155,210	1,402,605	1.92
Samsung Biologics Company Limited	5,622	4,895,646	6.68
ST Pharm Company Limited	9,996	928,766	1.27
Yuhan Corporation	26,107	1,583,905	2.16
韓国合計		14,580,896	19.91
タイ			
Bangkok Dusit Medical Services Public Company Limited	2,997,200	3,365,840	4.60
Bumrungrad Hospital Public Company Limited	143,300	1,176,418	1.61
タイ合計		4,542,258	6.21

地域別（第一区分）（続き）

	数量	公正価値 シンガポール・ドル	受益者に帰属 する純資産に 占める割合 %
上場株式（続き）			
米国			
BeiGene Limited	199,200	4,593,732	6.27
米国合計		<u>4,593,732</u>	<u>6.27</u>
非上場株式			
中国			
China Animal Healthcare Limited	1,246,000	-	-
中国合計		<u>-</u>	<u>-</u>
非上場株式合計		<u>-</u>	<u>-</u>
合計		<u>68,572,314</u>	<u>93.63</u>
投資ポートフォリオ		68,572,314	93.63
その他純資産		<u>4,663,487</u>	<u>6.37</u>
受益者に帰属する純資産		<u>73,235,801</u>	<u>100.00</u>

地域別(要約)	受益者に帰属 する純資産に 占める割合 %
上場株式	
中国	44.84
香港特別行政区	4.90
インド	11.50
韓国	19.91
タイ	6.21
米国	6.27
上場株式合計	<u>93.63</u>
投資ポートフォリオ	93.63
その他純資産	<u>6.37</u>
受益者に帰属する純資産	<u>100.00</u>

業種別(第二区分)

	公正価値 シンガポール・ドル	受益者に帰属 する純資産に 占める割合 %
バイオテクノロジー	15,336,976	20.94
商業サービス	1,612,907	2.20
ヘルスケア - 製品	5,448,323	7.44
ヘルスケア - サービス	14,602,349	19.94
医薬品	28,920,988	39.49
小売	2,650,771	3.62
投資ポートフォリオ	68,572,314	93.63
その他純資産	4,663,487	6.37
受益者に帰属する純資産	73,235,801	100.00

◆損益計算書

日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド

2022年12月31日に終了した会計年度

	2022年 シンガポール・ドル
収益	
受取配当	646,190
現金および現金同等物に係る利息	36,337
	<u>682,527</u>
費用	
運用報酬	449,404
登録費用	2,462
受託者報酬	20,877
保管報酬	28,231
監査報酬	28,559
評価報酬	27,836
取引費用	225,645
その他費用	72,559
	<u>855,573</u>
純損失	<u>(173,046)</u>
投資に係る純(損失)利益	
投資に係る純損失	(17,369,193)
純為替差損	(144,399)
	<u>(17,513,592)</u>
税引前当期利益(損失)合計	(17,686,638)
所得税	(57,940)
税引後当期利益(損失)合計	<u>(17,744,578)</u>

マネー・アカウント・マザーファンド

運用報告書

第14期（決算日 2023年10月12日）
（2022年10月13日～2023年10月12日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2009年10月30日から原則無期限です。
運用方針	公社債への投資により、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要運用対象	わが国の国債および格付の高い公社債を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行ないません。 外貨建資産への投資は行ないません。

ファンド概要

主として、わが国の国債および格付の高い公社債に投資を行ない、利息等収益の確保をめざして運用を行ないます。ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		債 組 入 比 率	純 資 産 額
		騰 落	中 率		
10期(2019年10月15日)	円		%	%	百万円
	10,028		△0.0	—	586
11期(2020年10月12日)	10,025		△0.0	—	888
12期(2021年10月12日)	10,023		△0.0	—	1,125
13期(2022年10月12日)	10,022		△0.0	—	560
14期(2023年10月12日)	10,018		△0.0	—	458

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額	
		騰 落	率
(期 首) 2022年10月12日	円		%
	10,022		—
10月末	10,022		0.0
11月末	10,021		△0.0
12月末	10,020		△0.0
2023年1月末	10,020		△0.0
2月末	10,020		△0.0
3月末	10,020		△0.0
4月末	10,020		△0.0
5月末	10,019		△0.0
6月末	10,019		△0.0
7月末	10,019		△0.0
8月末	10,018		△0.0
9月末	10,018		△0.0
(期 末) 2023年10月12日	10,018		△0.0

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2022年10月13日～2023年10月12日)

基準価額の推移

期間の初め10,022円の基準価額は、期間末に10,018円となり、騰落率は△0.0%となりました。

基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

<値下がり要因>

- ・無担保コール翌日物金利がマイナス圏で推移したこと。

(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.03%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.03%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.16%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.21%近辺で期間末を迎えました。

ポートフォリオ

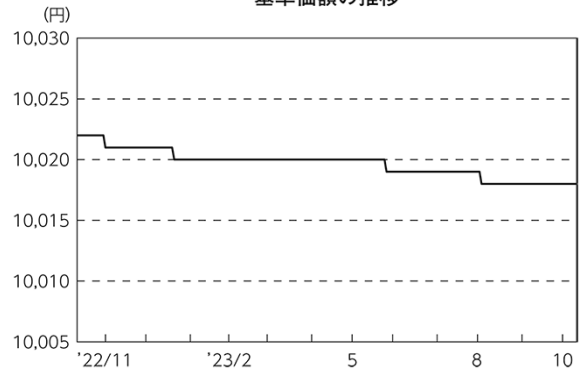
運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

○今後の運用方針

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

基準価額の推移



期首	期中高値	期中安値	期末
2022/10/12	2022/10/13	2023/08/03	2023/10/12
10,022円	10,022円	10,018円	10,018円

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年10月13日～2023年10月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	円 0 (0)	% 0.000 (0.000)	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	0	0.000	
期中の平均基準価額は、10,019円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2022年10月13日～2023年10月12日)

該当事項はございません。

○ 利害関係人との取引状況等

(2022年10月13日～2023年10月12日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2022年10月13日～2023年10月12日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○ 組入資産の明細

(2023年10月12日現在)

2023年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2023年10月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 460,554	% 100.0
投資信託財産総額	460,554	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2023年10月12日現在)

項	目	当	期	末
(A) 資産				円
	コール・ローン等			460,554,227
(B) 負債				
	未払解約金			460,554,227
	未払利息			154
(C) 純資産総額(A-B)				458,012,074
	元本			457,205,640
	次期繰越損益金			806,434
(D) 受益権総口数				457,205,640口
	1万円当たり基準価額(C/D)			10,018円

(注) 当ファンドの期首元本額は559,411,728円、期中追加設定元本額は65,398,257円、期中一部解約元本額は167,604,345円です。

(注) 2023年10月12日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・グローバル・プロスペクティブ・ファンド	237,562,073円	・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<オーストラリアドル・コース> (毎月分配型)	1,008,393円
・中華圏株式ファンド (毎月分配型)	61,601,208円	・インデックスファンドMLP (1年決算型)	873,815円
・グローバルC o C o債ファンド 円ヘッジコース	39,403,892円	・S M B C ・日興 世銀債ファンド	817,802円
・グローバルC o C o債ファンド ヘッジなしコース	16,912,508円	・エマーゼィング・プラス・円戦略コース	690,677円
・エマーゼィング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド(マネーベースファンド)	12,476,397円	・欧州社債ファンド Bコース (為替ヘッジなし)	553,224円
・エマーゼィング・プラス(マネーベースファンド)	9,883,036円	・D C世界株式・厳選投資ファンド	472,243円
・アジア社債ファンド Bコース (為替ヘッジなし)	9,797,265円	・ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド (毎月分配型) 為替ヘッジあり	421,031円
・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース> (毎月分配型)	9,153,672円	・世界標準債券ファンド (1年決算型)	260,591円
・インデックスファンドMLP (毎月分配型)	7,091,485円	・欧州社債ファンド Aコース (為替ヘッジあり)	198,309円
・アジア・ヘルスケア株式ファンド	6,597,366円	・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<南アフリカランド・コース> (毎月分配型)	117,667円
・エマーゼィング・ハイ・イールド・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース	6,192,802円	・上場インデックスファンド海外新興国株式 (MSCIエマーゼィング)	99,902円
・世界標準債券ファンド	6,082,942円	・グローバル・ハイブリッド・プレミア (為替ヘッジあり)	48,754円
・ビッグデータ新興国小型株ファンド (1年決算型)	5,821,782円	・グローバル・ハイブリッド・プレミア (為替ヘッジなし)	22,949円
・エマーゼィング・プラス・成長戦略コース	3,018,587円	・上場インデックスファンド海外先進国株式 (MSCI-KOKUSAI)	19,997円
・ピムコUSハイインカム・ローン・ファンド (毎月分配型) 為替ヘッジなし	3,000,903円	・上場インデックスファンド米国株式 (S&P500)	19,983円
・アジアリートファンド (毎月分配型)	2,676,160円	・上場インデックスファンド豪州リート (S&P/ASX200 A-REIT)	19,977円
・アジア社債ファンド Aコース (為替ヘッジあり)	2,538,599円	・上場インデックスファンド新興国債券	9,981円
・グローバル・ダイナミックヘッジα	2,517,567円	・上場インデックスファンドフランス国債 (為替ヘッジあり)	9,979円
・資源株ファンド 通貨選択シリーズ<米ドル・コース> (毎月分配型)	1,963,920円	・上場インデックスファンドフランス国債 (為替ヘッジなし)	9,979円
・インド株式フォーカス (奇数月分配型)	1,797,541円	・上場インデックスファンド豪州国債 (為替ヘッジなし)	9,978円
・グローバル株式トップフォーカス	1,696,908円	・上場インデックスファンド豪州国債 (為替ヘッジあり)	9,978円
・グリーン世銀債ファンド	1,451,090円	・上場インデックスファンド米国株式 (S&P500) 為替ヘッジあり	9,967円
・アジアREITオープン (毎月分配型)	1,224,190円	・上場インデックスファンド米国債券 (為替ヘッジなし)	9,958円
・日興マネー・アカウント・ファンド	1,018,655円	・上場インデックスファンド米国債券 (為替ヘッジあり)	9,958円

(注) 1口当たり純資産額は1,0018円です。

○損益の状況

(2022年10月13日～2023年10月12日)

項	目	当	期
(A) 配当等収益			円
	受取利息	△	198,410
	支払利息		939
(B) 保管費用等		△	199,349
(C) 当期損益金(A+B)		△	102
(D) 前期繰越損益金		△	198,512
(E) 追加信託差損益金			1,218,941
(F) 解約差損益金			129,627
(G) 計(C+D+E+F)		△	343,622
	次期繰越損益金(G)		806,434

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2022年10月13日から2023年10月12日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

- 当ファンドについて、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、当該ファンドにて行なうデリバティブ取引の利用目的を明確化するべく、2023年7月21日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。(付表、第16条、第17条、第18条)